

総務部 実施記録

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種儀式、行事の円滑な運営とミスのない出版物の作成 ・PTA活動の活性化 				
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・学校要覧など総務部担当の出版物に誤りが見られた。 ・高P連東北大会の発表などに代表される一部PTA役員は活発だったが、全体的にはやや低調だった。 				
具体的な 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・出版物のミスゼロ ・PTA会員全体がPTA活動に関わることのできる企画をもつ。 				
目標達成の ための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・校正については、原稿作成元をはじめとして、複数人で複数回行うこととする。 ・PTA役員にはたらきかけ、まずは学年単位の企画を立ち上げたい。 				
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・出版物については、原稿元も含めた複数人によるチェック体勢をしいた。 ・PTA役員会において懇親会を開き、相互交流の場を設けた。 ・高P連中央地区交流会や母親大会への全体的かつ積極的な参加の呼びかけ。 				
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・出版物については、「学校要覧」における表中の数値の細かな誤りが三カ所あり、ミスの完全な払底はできなかった。その他の出版物や文書等についてはほぼ満足できる内容だったのではないかと考えている。 ・PTA役員会における懇親会が端緒となり各学年の懇親会に波及したこと、母親交流会や中央地区交流会への一般会員の参加が多かったことなど、これからの活動の端緒とできたと考えている。 			評 価	
				A	
次年度の 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・出版物にミスは必ずあるものだという意識で、徹底的に見直しをする必要がある。特に外部に発注した原稿についても、遠慮せずに何度も校正をお願いするべきであった。 ・PTA役員会に付随した懇親会は来年度も継続したい。また、PTA役員委員会の委員会活動を実践的なものに少しずつ改革していきたい。手始めに、PTA広報誌（「たかだい」）の誌面編集作業を広報誌委員会に係わってもらおうと考えている。 				
外部評価	意 見	特になし。		評 価	A

評価基準

A：具体的な活動がなされ、目標は達成できた。

B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

教 務 部 実 施 記 録

重点目標	1. 学校運営の円滑化・合理化 2. データチェック・管理の徹底			
現 状	1. 職員から教務への提出書類等、本当に必要なものなのか疑問に思うことがある。 2. 昨年度、指導要録の記載内容に間違いがあった。			
具体的な 目 標	1. 校務処理の適正かつ円滑な遂行のために、各種業務の見直しと改善を図る。 2. 生徒指導要録の電子化新システムの運用方法を確立する。			
目標達成の ための方策	1. 部内での声かけを怠らず、業務遂行の遅延等を防ぐとともに、スマート化を図る。 2. データの正確かつ迅速な点検・管理方法の確立に努める。			
具体的な 取組状況	1. 普段から声を掛け合うことができ、確認が必要なこと、やる必要がないこと、情提の提示方法を工夫するなど、改善が見られている。 2. 生徒指導要録作成についてデータ管理の徹底を図っている。			
達成状況	1. 教務部員で日頃から気づいたことや、改善したほうがいい点など、自由に意見を述べる事ができている。そのため、即座に改善できることはためらわず実行できている。 2. 生徒指導要録作成に関する職員研修会を行い、作成方法やデータ管理についての知識を共有した。また、成績処理においてもミスのないように考査の都度担任・学年に声かけをしている。			評 価
				A
次年度の 改善策	1. 次年度からは知の探究活動も方向性が変わることもあり、一層の業務のスリム化・円滑化を意識して運営にあたる。具体的には、日々の時間割変更業務のありかたや短縮授業日の必要性などを検討する。 2. 生徒指導要録の電子化に伴い、指導要録や成績証明書作成等の煩雑さは軽減されるが、その分、入力ミスがないように確認を徹底する。また、年間の考査の日程を見直し、成績処理をミスなく行えるように余裕をもって作業ができるよう配慮する。			
外部評価	意 見	特になし。		評 価
				A

評価基準

A: 具体的な活動がなされ、目標は達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

企画研修部 実施記録

重点目標	組織的な授業改善が図れるよう指導体制を支援する。			
現 状	各教科で実践的に取り組みがなされている。 ○校内研究授業 年2回 (前期5月・後期11月) ○授業アンケート 年2回 (7月・12月) 校内研究授業の成果・授業アンケートの結果を踏まえた授業改善に努めている。			
具体的な 目 標	「秋高授業実践五項目」に基づいた授業改善が図れるように企画する。 [1] 興味関心の高揚 [2] 人間力の錬磨 [3] 思考力の養成 [4] 表現力の向上 [5] 受験力の強化			
目標達成の ための方策	○研修講座の案内・申込、高教研の申込を支援する。 ○校内研究授業を、原則として、各教科で年2回、企画する。 ○授業アンケートを、年2回、企画する。 ○研究紀要を編集する。			
具体的な 取組状況	○案内については有益な情報を発信し、周知徹底を図った。 ○研究授業を5月と11月の年2回実施した。特に11月は外部から来賓を招き、全体会では活発な意見交換を行った。 ○授業アンケートはマークシートの発注段階から企画し、年2回実施した。			
達成状況	授業改善を大きなテーマとして臨んだ今年度は、11月の研究授業が活動の中心であったと言える。当日は十数名の来校者があり、6教科の授業を公開し、その後の全体会で多くの改善点を共有することができた。こうした成功の背景には安田校長が企画した「授業改善強化月間」の働きかけも大きい。また授業アンケートの分野では「授業プリント、視覚教材、週間テスト、確認テスト」にも言及し、生徒の進路達成という視点で調査・集計できた。その結果や改善点をどう全職員に伝えていくかが今後の課題である。			評 価 A
次年度の 改善策	文科省などの機関から発信される情報をタイムリーに提供していきたい。また来年度入学の1年生に企画研修部としてどのように関わっていくかを視野に入れて活動すべきであろう。生徒に関連して、教育実習生が本校に13名、来年度訪問する予定である。ここでも、大学入試改革や働き方などについて、これまでとは違った角度から指導することが求められるであろう。最後に冊子『授業研究』の編集業務の軽減と費用削減について今後も継続審議していきたい。			
外部評価	意 見	着実な前進、すばらしいと思います。さらに共同での授業研究に磨きをかけていただきたいと思います。	評 価	A

評価基準

A：具体的な活動がなされ、目標は達成できた。

B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

生徒指導部 実施記録

重点目標	自転車事故の未然防止			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度報告があった自転車事故は19件 ○一時停止義務違反、並走、イヤホン装着等ルール・マナー違反者が散見される 			
具体的な 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○自転車事故5件以内 ○交通ルールを理解させる ○軽車両運転者としての自覚と責任をもたせる 			
目標達成の ための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○月間運動（うぐいす坂月間）、週間運動（敬天週間）の実施 ○関係機関との連携（秋田東警察署、少年保護育成委員会、PTAほか） ○交通安全教室の実施（民間講師の活用、生徒会企画の2回実施） 			
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○4月に1ヶ月間、うぐいす坂の自転車乗り下り禁止期間を設け、交通安全に対する意識高揚を図った。 ○交通安全教室については、初の試みとして一般社団法人日本自動車連盟の協力を得て開催した。（これまでは、秋田東警察署員を講師に開催） ○生徒会企画の交通安全教室を開催した。 			
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○自転車事故発生件数 26年度 8件 27年度 11件 28年度 19件 29年度 16件 ○事故発生件数から見ると目標達成とは言えない。事故の内容を分析する、生徒側に非が認められない被害的事故（10件）が多かったことが特徴である。 ○校門前の一時停止や並列運転などルールやマナーを遵守できない生徒が見られる 			評 価
				B
次年度の 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会企画の交通安全教室は継続したい取り組みである。事後アンケートの結果を見てもこの取り組みへの高い評価がうかがえる。生徒の自主企画であることの意義は大きい。 ○交通ルールの遵守については絶対的なものであり、状況に応じては規制的な取り組みの導入も考える必要がある。 			
外部評価	意 見	特になし。		評 価
				A

評価基準

A：具体的な活動がなされ、目標は達成できた。

B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

進路指導部 実施記録

重点目標	生徒の進路意識の高揚をはかり、希望進路の実現を目指す。			
現 状	生徒の高い目標の実現に向け、各学年で細やかな指導がなされ、一定の成果を上げている。その背景として、多様な進路事業の実施が生徒の進路意識向上に資するものとなっていることがあげられる。ただし、センター試験への対応は十分ながら、難関大個別試験への対応には課題も有する。			
具体的な 目 標	生徒の第一志望合格に向けて、将来への明確な展望に基づいた強固な意志と、知的好奇心に支えられた高度かつ広範な総合的学力をもって立ち向かう生徒の育成			
目標達成の ための方策	1 進路指導部と学年部の連携 2 進路事業の目的の周知徹底 3 常に改善を意識し、難関大受験を明確に射程に入れた授業実践 4 組織的な啓発指導と確固たる学力育成の有機的連動			
具体的な 取組状況	○「北雄合宿」・進路適性検査・各学年針路講演会・東北大出前講座・学部学科ガイダンス・羅針盤等の進路意識高揚と情報提供の事業の実施。 ○大学入試分析会・進路検討会・出願検討会等の生徒の学力状況把握と共有事業の実施。 ○実力テスト・各種模擬試験・トップレベルチャレンジ・昼放課後講座・如月弥生講座等の学力向上事業の実施。 ○職員研修等の高大接続改革に関する情報の獲得と共有活動の実施。			
達成状況	各学年において、細やかな進路指導がなされており、羅針盤や各種ガイダンス、進路講演会を中心とした情報提供や啓蒙活動も適切である。「志は高く、第一志望へ」という理念は学校全体として浸透している。			評 価 A
	模試やセンター試験後の各教科の分析と課題の洗い出しや、職員研修、企画研修部の授業改善月間や授業評価アンケート等との連動により、難関大を射程に入れた授業実践・授業改善は一步ずつ歩を進めている。 共通テスト、英語 4 技能、新調査書を射程に入れた高大接続改革に関する職員研修や情報提供も適切に行われた。 保護者アンケートでも進路に関する好意的意見は 90%に迫っている。			
次年度の 改善策	生徒達の志望達成のための進路事業の目的の再確認や検証、授業改善についてはまだ徹底の余地がある。目標と現状の具体的把握による課題の明確化から見れば、本校進路が目指す目標は浸透してきたと思われる。しかし、現状把握（生徒の学力や授業の現状等）、課題把握に曖昧さを含み、解決へのアプローチもルーズになる可能性がある。学年や教科と連携、職員間での生徒や授業の現状の把握、情報共有を進路事業全体に徹底することが求められる。高大接続改革にまつわる共通テストや新調査書などの変更は、常に目を離すことのできないものであり、情報の獲得と周知は次年度以降もなお一層の継続と徹底が強く求められる。			
外部評価	意 見	特になし。		評 価 A

評価基準

A：具体的な活動がなされ、目標は達成できた。

B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

特別活動部 実施記録

重点目標	「文武両道」、「自主自律」を体現するための支援の充実。			
現 状	多くの生徒は「文武両道」「自主自律」の精神を実現させるべく前向きに取り組んでいる。しかし、部活動と学習の両立にあたり、日頃の学習課題や小テスト等の多さに苦しんでいる生徒が多い現状も見られる。			
具体的な 目 標	各分掌と協力し、キャリア教育的視点に立ちながら、「文武両道」「自主自律」の本校の伝統的精神を生かし、特別活動を通じて人間性豊かな生徒を育成する。			
目標達成の ための方策	(1)「LHR活動」「総学」の適切な計画。 (2)各部活動へ取り組みやすい環境作りと、学習環境の支援の充実。 (3)各部の全県大会上位入賞と全国大会出場の支援。 (4)応援活動の充実。			
具体的な 取組状況	(1)ほぼ年間計画通りに実施されたが、「LHR」での担任裁量時間が不足している。「総学」においても「知の探究コンテスト」に向けた活動時間が不足した。 (2)各部とも「文武両道」「自主自律」の精神のもと、計画的に活動に取り組むことができた。 (3)達成状況の欄に記載。 (4)生徒会執行部による各種大会に向けた壮行会や、野球・ラグビーでの全校応援など、大きな盛り上がりを見せることができた。			
達成状況	(1)「知の探究コンテスト」は今年度も充実した内容で実施することができ、外部から高い評価を得ることができた。 (2)体育館や各部室における施錠・消灯など徹底することができなかった。考査直前の学習支援は学年や教科任せになってしまった。 (3)運動部では、陸上女子の総合初優勝をはじめ、全県大会での各部の活躍は堂々たるものであった。野球のベスト4やサッカー・バスケット男子のベスト8など、団体競技での上位進出もうれしい活躍であった。全国総体へは6部15名が出場した。文化部では、放送委の総合優勝や将棋団体の14連覇をはじめ、7部24名が全国大会へ出場した。吹奏楽の東北大会出場も大きな成果と思われる。 (4)野球・ラグビーでの全校応援での盛り上がりは、応援される側の部の選手だけでなく、応援する側の大きなエネルギーとなった。			評 価
				A
次年度の 改善策	「知の探究コンテスト」は、探究活動として総学の時間を活用して実施される予定であり、その取り扱いについて、検討が必要である。また、この内容と関連して、LHRを本来の学級活動に使える時間としてより多く確保したい。			
外部評価	意 見	目標達成のための方策として掲げられた4項目のうち「LHR活動」の達成状況をもっと詳細に把握して振り返り、改善の具体的手立てを示す必要がある。	評 価	A

評価基準

A：具体的な活動がなされ、目標は達成できた。

B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

保健・教育相談部 実施記録

重点目標	環境美化の促進			
現 状	清掃が行き届かない部分がある			
具体的な 目 標	環境美化週間の優秀クラスを増やす			
目標達成の ための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃の呼びかけの回数を増やす ・ コードレス掃除機の台数を増やして使用を促す 			
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5月、7月、10月の環境美化週間において清掃区域を3カ所に分けて各クラスの厚生委員がグループを作り、評価ポスターを用いて重点項目を中心に評価を行った。 ・ 放送を用いて評価の低い箇所を指摘して改善を促した。 ・ 10月の環境美化週間には評価表を昇降口に公開し注意を喚起した。 ・ 掃除機のほかコロコロ（粘着型ほこり取り）を購入しカーペットの清掃を促した。 			
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 厚生委員や指導教員の協力のもと、優秀クラスを増やすことができた。 ・ 学校環境定期検査の結果、ダニアレルゲンの測定値が1カ所がプラスマイナス（判定は良好なレベル）、残り5カ所はすべてマイナスになり、「とても快適な状態」と診断された。 		評 価	
			A	
次年度の 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロコロの数を増やし、毎日カーペットの清掃をするよう呼びかける。 			
外部評価	意 見	特になし。	評 価	A

評価基準

A：具体的な活動がなされ、目標は達成できた。

B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

図書・視聴覚情報部 実施記録

重点目標	図書館や視聴覚関連の環境整備を促進し生徒の利用に資するとともに、情報の共有による校務の円滑化を図る。			
現 状	<p>図書：図書館の環境整備や図書館報の発行等を今後充実させる必要がある。</p> <p>視聴覚：現状でできる範囲内でより良い環境作りに努めている。</p> <p>情報：サイボウズの導入など校務の円滑化を図っている。</p>			
具体的な 目 標	<p>図書：読書を通じて生徒がキャリアプランニングを行うことができる環境を整備し、図書館のより一層の活用を図る。</p> <p>視聴覚：視聴覚室及び視聴覚教材の活用を促す。</p> <p>情報：サーバー及び校内LANの管理に努め、情報の共有と活用を促進する。</p>			
目標達成の ための方策	<p>図書：図書委員の活動を促し、環境整備や図書館報の発行等を充実させる。</p> <p>視聴覚：視聴覚室及び教室で利用できる視聴覚機材の整備を充実させ、職員へのガイダンスを行う。校内で利用できる機材と使用形態の研究を進める。</p> <p>情報：情報を共有しつつ組織的に活用するための方策を検討する。また、配付メールアドレスの有効活用に向けて研修を行う。</p>			
具体的な 取組状況	<p>図書：図書館に図書の紹介コーナーを設け、図書館報の企画を工夫するなど図書委員が積極的に図書館の利用を促進する活動に取り組んだ。</p> <p>視聴覚：視聴覚機材の整備を促進し、使用方法等職員への説明を行った。</p> <p>情報：サーバーの入れ替え作業をスムーズに行い、安定したネットワーク環境の整備、データ管理を行った。グループウェアの変更も行った。</p>			
達成状況	<p>図書：図書館利用を促進する活動は今後も一層の充実が必要だが、生徒や職員の利用目的に適った図書資料を充実させ、生徒のキャリアプランニングに資することができた。</p> <p>視聴覚：視聴覚室は授業、学校行事、放課後の部活動等で大変よく活用されている。</p> <p>情報：教員配付PCの故障やソフトウェアの不具合と思われる事例に即時対応できた。</p>			評 価
				A
次年度の 改善策	<p>図書：図書委員の一層の活動を促し図書館環境を整備することで読書意欲の喚起を図る。</p> <p>視聴覚：視聴覚機材、視聴覚室を効率よく管理し、利用できる機材の整備を進める。</p> <p>情報：パスワードの期限切れを防ぐなど情報セキュリティの意識の向上を図りたい。</p>			
外部評価	意 見	特になし。		評 価
				A

評価基準

- A：具体的な活動がなされ、目標は達成できた。
- B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
- C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

研修会館運営部 実施記録

重点目標	(1) 研修会館の施設設備についての維持改善に努め、利用の利便を図る。 (2) キャリア教育の観点から、合宿等の活動を通して生徒の自己発見の援助を行う。			
現 状	(1) 三階視聴覚室は合唱部、和室は茶道部が活動場所として使用している。食堂は、軽音楽同好会・ダンス同好会・雲隊チアの練習場所として使用している。 (2) 老朽化が進み、破損・故障箇所がある。 (3) 衛生面で多少問題がある。			
具体的な 目 標	(1) 各種合宿計画とその調整。 (2) 合宿以外の研修会館利用管理。 (3) 宿泊設備・備品の衛生管理。			
目標達成の ための方策	(1) 特別活動の活性化のため積極的に活用を呼びかける。 (2) 研修会館使用予約表の作成。 (3) 定期的な巡回による施設・設備の点検。			
具体的な 取組状況	(1) 研修会館使用予約表を作成し、活用する。 (2) 巡回による施設・設備の点検をする。 (3) ボイラー室の壁を修繕する。			
達成状況	(1) 事務部のご尽力で、ボイラー室の壁を修繕することができた。 (2) 研修会館使用予約表を作成し活用したが、記入欄には主に合宿を計画している部や委員会のみが記入していて、普段の活動を把握するのが難しかった。 (3) 巡回回数が少なかった。			評 価
				B
次年度の 改善策	(1) 研修会館を使用する部・委員会ごとに使用簿を作成して、常に使用状況を把握できるようにする。 (2) 巡回回数を増やす。 (3) 合宿等で不在となる時間帯の貴重品・金銭の管理。不在時の暖房機の使用禁止の徹底。 (4) 事務部との連携で水道管の元栓の修繕を行う。			
外部評価	意 見	特になし。		評 価
				A

評価基準

A：具体的な活動がなされ、目標は達成できた。

B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。